

“非対面販売”に対応

高倉有光社

独自の自販機開発

綾部

綾部市十倉志茂町の工場で自動販売機の整備などを手掛ける株式会社高倉有光社（本社・綾部市西町一丁目、高倉雅紀社長）は、初の自社製自販機を開発した。ロッカー型で電気を使用しないのが特長。感染症対策に対応した「非対面販売」が24時間、無人でできるとあって幅広い業種から引き合いがあるという。来年春季の販売開始を目指し、製造コスト抑制などの改良を進めている。【樋口大亮】

100年以上の歴史を持つ同社は、40年ほど前から現在の主力事業である自販機の整備を始めた。いつかは自社で自販機が作れるように、約30年前には板金加工の事業に着手。近年はオリジナルのラッピングやプリントを施すサイン事業に乗り出している。

以前から既製品の飲料用自販機に改良を加えたTシャツ自販機などは作っていたものの、完全な自社製は開発できずにいた。大手メーカーとの差別化を図れる製品を模索していたところ、地元から寄せられた「野菜の無人販売に使いたい」というニーズに着目。電

気を使用しないロッカー型の自販機を考案した。2019年春季ごろから開発に取り掛かり、2年ほど掛けて完成させた。自販機は透明の窓が付いたロッカーの形状で、設定された金額の硬貨を投入すれば扉が開いて商品が取り出せる。内寸は幅29センチ×高さ17センチ×奥行き31センチ。設置場所や用途に合わせてロッカーの数は変更できる。

設定可能な金額は100円玉1〜3枚分、500円玉1〜2枚分。外装には観光地の風景や会社のロゴマークなどオリジナルデザインのリッピングを施すこともできる。保冷・保温が必要な商品には向かないが、収納できる大きさのものであれば24時間無人販売が可能になり、新型コロナウイルスの感染拡大で需要が高まる「非対面販売」にも対応できる。今年3月に京都市であった展示会に出展したところ、食

品関係やスポーツ用品メーカーなどの事業者から引き合いがあったという。ただし、現状では求められる価格より高額になるため、昨年に導入した3Dプリンターで一部の部品を作りながら製造コストの削減を図っている。年内に本社前に自販機を設置して使用テストを始める予定で、問題がなければ来年の春をめどに商品化する。

高倉社長（61）は今は事業の柱が自販機整備、板金、サイン事業の3本だが、自社製の自販機で4本の柱を目指したい」と意欲を見せている。（高倉有光社は0773・45・1006）

ロッカー型で電気不使用



高倉有光社が開発したロッカー型の自販機（綾部市十倉志茂町）